

## 小林武史 × 伊藤亜紗

コロナ禍から小林武史がよく口にしてしている言葉「Rita / 利他」。研究テーマに「利他」を掲げ、2021年の1回目には小林も参加した「利他学会議」を開催している伊藤亜紗さんとの対話より抜粋して掲載。



小林武史



伊藤亜紗

**小林** 伊藤さんの利他学って、暮らしの中の知恵というか、相手のために何かをするということが、必ずしもそのように伝わるわけではないということだったり、それを「待つ」「見守ってあげる」ということだったり、そんなことを僕は伊藤さんから感じていたんですけども。

**伊藤** いつも我々の仲間で話しているのは、「与える利他じゃない利他を探ろう」ということで。最近注目しているのが「漏れる」という動詞なんです。自然界って「困ってるんでしょ、あげますよ」というネットワークじゃなくて、勝手に漏れ出させているものがある。それが毒なのか栄養なのか本人もよくわからない

まま、水とかCO<sub>2</sub>とか養分とかが漏れ出ている。木漏れ日もそうですけど、自分が作った養分も「実」という形で一旦蓄えたように見えるけど、それが落ちて他の生物の養分になったり、ひたすら漏れ出させている。そういう考え方を人間社会でもきたら面白いんじゃないかというのを最近考えていて。

**小林** 今まで ap bank の活動をやってきけても漏れ出す、溢れ出すっていうようなことはありますね。こういうつもりでやったわけじゃなかったんだけど、結果としてこんなところに芽が出たんだ、とか。多分、音楽の役割なんかも本当にそうなんだと思うんですけど、ap bank fes は漏れ出したものが、みんなに何かとなつて伝わっていく。そういうことを目指しているんだなともお話ししながら思いました。

**伊藤** そうですね。思い通りになることってつまんないと思うんですけど。最初からわかっているのに、なんでそっちにどんどん行くのかっていうのがすごく不思議で。

**小林** 若い頃、同じ言葉をちよつと偉そうに言っていたことがあつたかも(笑)。

**伊藤** そういえば今年3月に、以前出ていただいた「利他学会議」をやったんですけど、そのサブタイトルが「一員であるこ

と」。一員性っていうのを、バンド感みたいなことを実はテーマにしてたんです。

**小林** へえ。

**伊藤** その言葉をくれたのは八丈島の人で。八丈島は近世以降、流入を受け入れてきた島なんですけど、でも流入と元々いた人の差が全然なく、みんな一員として受け入れてきたという歴史があつて。流入が来ると新しい文化が来るみたいな、そういうこともあつて、うまくみんながコミュニティを作っていくんですね。1個の評価軸で人を見ないとか移住者に対してもオープンだったり。そういう八丈という場所が持っている利他の形って、一員制みたいな言葉で表現されるもので。島の人が「結局利他って一員であるということだよな」という風にさらつとおっしゃったので、あ、すごい本質ついていると思つてびっくりしました。

**小林** ap bank fes のステージでも、各人がやるべき役割を果たしていくんだけど。自分が得意とするけど、みんなが喜ぶことをただ並べればいいというよりも、みんながそれを作っていくというふうな。全体の音楽の構成もそういう風になつていくものなんですよね。本当に面白い発想のフェスなので。「ap bank fes 行きたいです」といってくれる人たちが一員感みたいなも

### 小林武史

80年代からサザンオールスターズや Mr.Children などのプロデュースを手掛ける。90年代以降、映画と音楽の独創的コラボレーションで知られる「スワロウテイル」「リリィ・シュシュのすべて」など、ジャンルを超えた活動を展開。2003年に「ap bank」を設立、自然エネルギーや食の循環を目指していく試みや東日本大震災の復興支援など、さまざまな活動を行っている。ap bank 代表理事のほか、Reborn-Art Festival (リボーンアート・フェスティバル) では制作委員長と実行委員長を務める。

### 伊藤亜紗

美学者。東京工業大学科学技術創成研究院未来の人類研究センター長、リベラルアーツ研究教育院教授。MIT 客員研究員 (2019)。もともと生物学者を目指していたが、大学3年次より文転。2010年に東京大学大学院人文社会系研究科基礎文化研究専攻美学芸術学専門分野博士課程を単位取得のうえ退学。同年、博士号を取得(文学)。主な著作に『目の見えない人は世界をどう見ているのか』(光文社)、『どもる体』(医学書院)、『記憶する体』(春秋社)、『手の倫理』(講談社)。第13回(池田晶子記念)わたくし、つまりNobody賞、第42回サントリー学芸賞、第19回日本学術振興会賞、日本学士院学術奨励賞受賞。

のを持つてきてくれるんだなっていうようなことを思ったりしています。